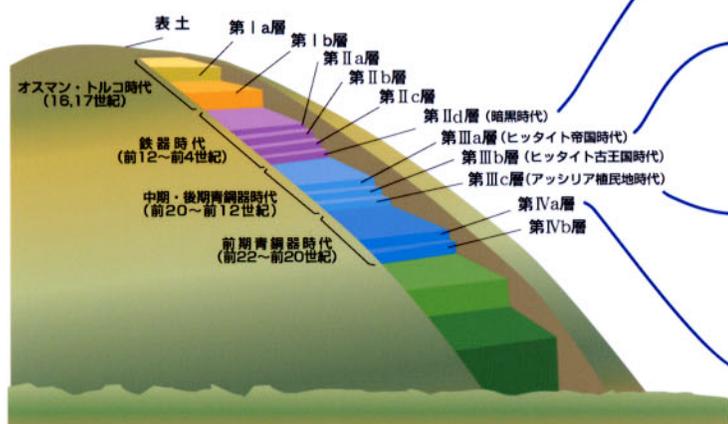


このアナトリア高原の遺跡の形態は大きく分けて二つある。一つはエーゲ、地中海、黒海沿岸に見られるヘレニズムからビザンツにかけての平らな遺跡である。もう一つがトルコ語でテベ、ホユックと呼ばれる丘状の遺跡である。現在、中近東文化センターが考古学的発掘調査を行っているカマン・カレホユックは後者の形態を呈している。この丘状の遺跡の中には少なくとも4千年、中には7～8千年の古代の都市が幾重にも堆積している場合がある。19世紀以来、欧米の研究者によって中近東世界では丘状の遺跡が幾つも発掘調査され、そこから出土した考古資料、文献資料を基に古代中近東史が記述されてきた。カマン・カレホユック調査の目的は、丘状の遺跡に発掘区を設定、上から丹念に最下層、つまり人々が最初に居住始めた層位まで発掘することであり、最終的には考古学、歴史学の基盤となる文化編年を一枚のチャートに作成することである。



カマン・カレホユックはトルコ共和国の首都アンカラの南東100kmに位置する。東西、南北250m、高さ16m。遺跡の北側にはアンカラ-カイセリ間の旧街道、また遺跡の南裾には地元の人々が通称「移動路」と呼ぶ「古代の道」が東西に走っている。1985年に考古学的予備調査を行い、1986年に本格的発掘調査に入った。現在、北区、南区、城塞区の3発掘区で調査を進めている。

本研究の主目的である「古代アナトリアの文化編年の再構築」は、北区で行っている。この北区には、現在まで10m×10mの発掘区を30個設定、1986～2001年まで4文化層を確認している。



第IId層 通称「暗黒時代」と呼ばれている時代であるが、カマン・カレホユックの調査でかなり高度の文化が存在したことが明らかとなりつつある。

第IIIa層 ヒッタイト帝国時代。何故ヒッタイト帝国が終焉を迎えたかが未だ解明されていない。鉄器時代は帝国時代の後に開始する時代の層が通説であるが、カマン・カレホユックでは帝国以前からも鉄器は出土している。

第IIIc層 アッシリア植民地時代は大火災で終わっているが、これはカマン・カレホユックに限ったことではなく未だに火災層はアナトリアの他遺跡のアッシリア植民地時代でも確認されている。このアナトリアの町々が焼かれた原因も明らかになっていない。

第IVa層 ヒッタイト帝国時代に見られる土器と形態的に類似する土器は、この第IVa層から出土し始めるが、それ以前の第IVb層からは一点も出土していない。果たして印欧語族の一派であるヒッタイト民族は第IVa層の時期にアナトリアに侵攻してきたのか。

以上のような問題点を取り上げ、発掘を行っている。特に今シーズン（2002年）は、ヒッタイト帝国時代、ヒッタイト古王国時代、アッシリア植民地時代、前期青銅器時代の文化層の調査を行う予定である。